



兵 肢 協 会 報

発 行 所

〒651-0062
神戸市中央区坂口通2丁目1-1
兵庫県福祉センター内

兵庫県肢体不自由児者協会

T E L 078-241-9907
F A X 078-241-9908
E-mail:hyoshikyo@nifty.com
URL:<http://hyoshikyo.d.dooo.jp>



一般財団法人
兵庫県肢体不自由児者協会 理事
由 井 祐 三

兵肢協は昭和34年天児民博先生（神戸ホストライオンズ）が初代会長（現理事長）となつて神戸に設立、東京にあった日本肢体不自由児協会の兵庫県支部でした。先天性小児麻痺の子ども達の福祉のために、愛護・養育・社会への啓発・ボランティアの育成などに力を尽くすのが目的であり、昭和40年認められて財団法人となる。

昭和53年天児先生が辞任、代つて佐藤宏先生（神戸イーストライオンズ）が「代田会長」に、しかし不幸にして急逝せられ、昭和56年神戸大学の柏木太治先生が二代目会長に就任されました。しかし、多忙、その他理由で僅か1ヶ年にして辞任され、昭和57年四代目会長に山本尚武先生（神戸イーストライオンズ）が就任、その山本先生が神戸イーストライオンズの会長時の昭和43年に私は入会し、ライオンズ歴は本年53年目になります。山本先生の勧めで兵肢協に参加したのも昭和57年でした。

ライオンズが政治にも宗教にも何等制約を受けない団体であるとか1業種一人の選ばれた者の集合体であることなどはロータリークラブも同じ条件ですが、日本人全体が終戦時の劣等感から解放され、世界人として何とか肩を並べたい意欲が燃え出したことです。日本国内事情も安定し、奉仕でもしょととのゆとりが精神的にも物質的にもでかけてきた頃でもありました。ライオンズでは5年毎に結成記念事業を行い、「われわれは奉仕する」として国際協会のモットーに対し、改めて私達会員の責任を考える時もあります。クラブを結成する主な理由は「奉仕」である一方、「われわれ」という言葉は、集団の努力と会員同志の親交を指し、結成記念日ではこの両面を強調するために準備をいたしました。

平成4年に結成35周年の会長をいたしました。
それまで資金難のため出版できなかつた兵肢協の会報に対しまして、記念事業の一つとして助成金を拠出させていただき、会員相互の交流と一般県民との相互交流を深めるための会報発行が実現いたしました。山本会長は合唱団グリーライオンズの生みの親で、昭和45年兵庫県合唱祭にも出演し、昭和51年からは兵肢協に対するチャリティコンサートを25年連続で実施し、現在のふれあいバザーの基礎となりました。また結成45周年の平成15年には大相撲神戸場所をポートアイランド

のワールド記念ホールで2日間開催するにあたり、私は実行委員長の責任で招待者の選定に兵肢協に応援いただき、青年グループをはじめ、多数の障害者や小学生、老人ホームの各種福祉団体の約500名をチャリティとして無料招待し、一般入場者である県民とともに国技である大相撲を楽しんいただきました。

このたび、兵肢協とライオンズでの奉仕活動が認められたのでしようか、思いもかけない厚生労働大臣表彰を受賞させていただきました。平成30年12月7日に障害者週間の中央行事の一つとして、第68回障害者自立更生等厚生労働大臣表彰式典と天皇・皇后両陛下の拝謁の為に上京いたしました。

平成の天皇として常に国民に寄り添い、数々の公務にご精励になります。國民誰もが敬慕の念に堪えなし思ひでしよう。天皇陛下より「永年ご苦労様」、皇后陛下には「これからもお身体に気をつけてがんばってね」と直かにお言葉を賜わりました。今もそのお優しいお声は忘れることが出来ません。私は昭和34年4月10日に皇太子殿下、正田美智子様のご成婚パレードを拝見し、それ以来60年振りにこのたびの皇居宮殿北溜までの感激のひとときでした。

過去を振り返って感じることですが、兵肢協やライオンズでの皆様の豊かな人生観を直かに肌で感じ、また豊富な知識を少しでも吸収することが出来て、自分は大変幸せ者と思っています。同時に、自分はこれまでして良いのだろうかと疑問を感じるのです。これまで余りにも与えられた過ぎていなかつたかと思います。兵肢協やライオンズが何を自分に与えてくれるのかと云ふことでなく、自分が何をなすべきかとの反省をこの機会に考え、先輩から受け継いだ立派な伝統を守りながら、ますます発展する為微力を注ぎたいと思っています。

肢 体 不 自 由 児 者 協 会 は

一 肢 体 不 自 由 児 者 の 愛 护 思 想 の 普 及
二 肢 体 不 自 由 児 者 の 愛 护 思 想 の 普 及、療 育 等 に 関 し 必 要 な 事 業 を 行 い、肢 体 不 自 由 児 者 の 福 祉 の 増 進 を 図 る こ と を 目 的 と し、そ の た め に、
三 肢 体 不 自 由 児 者 の 愛 护 思 想 の 普 及、療 育 等 に 関 し 必 要 な 事 業 を 行 い、肢 体 不 自 由 児 者 の 教 育 の 援 護
四 肢 体 不 自 由 児 者 の 激 励 慰 安
五 肢 体 不 自 由 児 者 に 関 す る 刊 物 等 の 発 行 及 び 幹 旋
六 肢 体 不 自 由 児 者 の 療 育 相 談 及 び 更 生 相 談
七 肢 体 不 自 由 児 者 の 教 育 の 援 護
八 肢 体 不 自 由 児 者 の 激 励 慰 安
九 肢 体 不 自 由 児 者 の 福 祉 に 関 す る 調 查 及 び 研 究
十 日 本 肢 体 不 自 由 児 協 会 及 び 関 係 諸 団 体 と の 連 絡